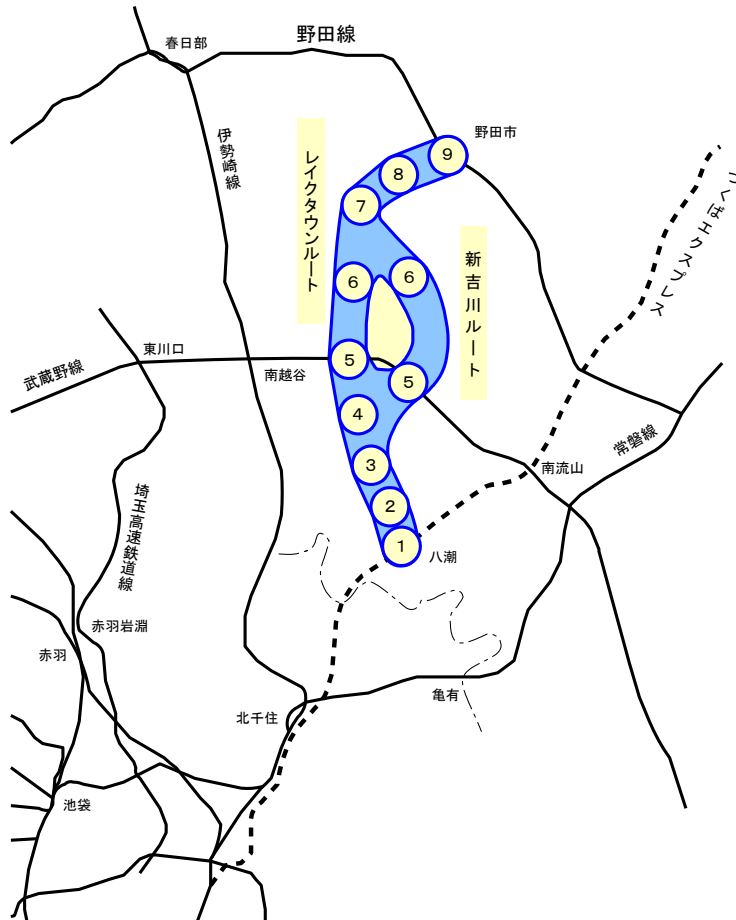


◆ 高速鉄道東京8号線事業化検討調査

【平成13・14年度 期成同盟会】

基礎調査結果を踏まえ事業化に向けてクリアすべき条件を整理



調査内容

- 「レイクタウンルート」、「新吉川ルート」の2つのケースについて、路線計画、建設計画、運行計画を設定し、概算建設費算定、需要予測、収支採算性分析、費用対効果分析を行う
- 8号線整備を前提とした、鉄道需要を喚起する魅力あるまちづくりの進め方について検討

調査結果

- 東京への速達性がより向上するレイクタウンルートでは、野田市から秋葉原までの所要時間は、八潮駅乗換ケースで39分、八潮駅からつくばエクスプレスに直通運転ケースで33分となり、流山おおたかの森駅で乗り換える場合の50分より大幅な時間短縮
- 概算建設費は、最も安いケースで2,100~2,300億円、高いケースで2,700~2,900億円
- 需要予測に用いる将来人口について、自治体の計画通りに開発が進む場合と、計画よりも人口伸び率が低くなる場合の2ケースを設定 ⇒ 収支予測の結果、レイクタウンルートで計画よりも人口伸び率が低いケースでも、地下鉄補助並みの補助（必要な無償資金率53%）があれば、開業後40年で黒字転換し事業採算性が確保される見通しがある

これらの検討結果から、8号線事業化への条件を整理